

## 【(10) 授業の評価・まとめ】

### ④「次時の予告をしている」

#### 《つまずきの背景》

- 見通しを持つことの困難さ、Q 状況理解の困難さ

#### 《解説》

授業の最後に、次時の内容について予告をすることで、子どもは次時の学習への見通しを持つことができます。また、予習や課題を持たせるなど「めあての意識」を高めることにもつながります。

学級の中には、見通しが持てないと不安になったり、次時に向けて何をすればよいか分からなかったりする子どもがいる場合があります。次時の内容を予告することで、安心感を持って次の授業に臨むことができやすくなります。また、予習内容や課題を提示することで、次時に向けてすべき内容が明確になり、学習意欲を高めることができます。

次時の内容を予告するときに、教師が教科書のページを伝え、子どもに付箋を貼らせるなどしておくと、家庭での予習や次時の授業の取り掛かりがスムーズになります。次時の内容を口頭で説明するだけでなく、簡単に板書したり次時に使用する具体物などを提示したりすると、イメージが湧きやすくなり次時の学習への興味付けになります。

#### 【工夫点】

- ・ 次時の内容を説明することで、次時への意欲付けをする。(小中高)



授業の最後に、次時の内容を説明することで、子どもは見通しが持てます。

その際に、教師が課題の確認をしたり、予習のポイントを説明したりしておくと、次時に向け、予習がしやすくなるなど意欲付けになります。